



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

聖天様は神様？仏様？

住職 平田真純

「聖天様は神様なのですか？仏様なのですか？」
「柏手は打ってよいのですか？」……このようなご質問を我々は、よくお受けします。

一見、答えは二つに一つですが、実はなかなか一筋縄にはいきません。ただ単にどちらかに断言したりすると本質を見失ってしまいます。いわゆる神道的な神様とは申し上げられませんし、身近に信仰する方にとって、仏様というイメージも持ちづらいことでしょう。そこで、いろいろな角度から御尊体の御性格を、さわりの的にはありますが検証してみます。

―天部―

仏教の教義では、御尊体に位くらゐを設けております。上から ①仏（如来） ②菩薩 ③明王 ④天となりま
す。聖天様は四番目の「天」部に属します。そして「天」のすぐ下は「人」になります。つまり、私たちに一番近い位くらゐにいらつしやるということになります。また時に「天」は、「天かみ」と読ませたりもします。良き道へ導いてくださる、仏教の「かみさま」ということができますし
ましょう。

―神仏習合―

明治政府は「神仏分離」の政策をとり、現在ではお寺と神社は完全に分かれていますが、それ以前は、神様と仏様、お寺と神社は一体でありました。仏様・神様ともに崇拝しながら、仏道や日本人としてのマナー

を学んできたのであると思います。

―聖天宮―

待乳山の本堂の扁額には、「聖天宮」と書かれています。お寺の本堂であれば「聖天堂」であるはずですが、なぜか「宮」になっています。江戸時代の図絵などを見ても、「聖天宮」とか「聖天社」と記され、また加えて「別當本龍院」と記されています。前述「神仏習合」思想の中、仏教の天を祀る「お宮」で、浴油供や大般若など仏教寺院としての法儀を厳修して聖天様を供養する……、ご信徒の立場から言えば、願いの成就を通して仏道に導いていただく……、それは当時、ごく普通の考え方であったのではないかと想像します。

私たちは聖天様を、正しき道に導いてくださる仏尊として、また常に御守護してくださる神様として、神・仏という固定観念を超えて信仰してもよいのではないのでしょうか。それは般若心経に説かれるところの「空」に通じる気がいたします。

ちなみに、かつて私の若い頃、当山では参拝の前後に柏手を打つ習慣が盛んでありました。といっても二礼二拍手一礼の神社様式ではなく、ポンポンと二つ打って一礼するやり方です。聖天様の御尊体の中には、仏尊として仏の教えが流れていることを意識していただけのなら、その作法も大いに結構でしょう。

待乳山便り

大根祭り 報告

一月七日、恒例の大根まつりが執り行われました。風呂吹き大根を求める行列は聖天公園を往復し、午後一時過ぎには用意した大根が全てなくなり、盛況のうちを終りました。

七五三 十二月十七日、酒谷叶ちやんが御宝前でお加持を授けられました。尊天様の「ご加護で健やかに成長

されることをお祈りしております。



御奉納

松本達郎様より提灯を二張御奉納いただきました。(右上)。



画家の谷川泰宏様より、今年も干支福絵を御奉納いただきました(右き現在の下)。

西川晃敏様よ分のお経をお唱えし、節分札をお加持します。この節える。り、本堂受付の机分札は、家の玄関に向かい合一式をご奉納い合わせでお貼りください。当院ただきました(左の習慣では、家から外に向かつて左の柱に『節分』、右の柱

本堂横の天水に『立春』の札を貼ります。桶を新調しまし厄が家の中に入ってくるのを防ぐと言われています。

ありがたく使 参道ではお神酒も無料でふわせていただきますので、皆様お誘いあわせの上、ご参拝ください。



二月御縁日大法要行事紹介

節分会 二月三日(土) 午後三時

節分札一組 五〇〇円

福豆 一合枮 五〇〇円 一升枮 三、〇〇〇円

この一年の厄を払う節分会法要を執行します。

節分とは元々季節の分かれる日という意味を持ち、

立春、立夏、立秋、立冬の前日を指しました。旧暦で

は立春が年の初めだったため、その前日、旧大晦日に

あたる二月三日を節分の日として、特に重要な日とな

つたのです。

また古来の日本の宮中では、大晦日の日に追儼ついなと呼

ばれる鬼払いの儀式がありました。鬼の姿をした官職つ。

の者を、豆を撒いて追い払うという行が、民衆に根付

つた。現在は浅草寺一山のご住職が本堂に入堂。今年一年

は浅草寺一山のご住職が本堂に入堂。今年一年



浴油講 二月二十日(火) 午前十一時

講金一、五〇〇円

(奉納) 胡麻油一斗缶 一五、〇〇〇円)

浴油講では毎朝の御祈禱に使われます最上の胡麻油を供養いたします。

当山では密教の秘法である浴油祈禱を以て、ご尊像

をお清めして所願の成就を祈願しております。

油には次に挙げる八つの効能、功德があるとされて

います。

① 清浄しょうじょう。油は本来清く澄み、水などと交わらない性質を持つ。

② 清冷しんれい。清々しく、冷えざえとした輝きを

持つ。③ 甘美かんび。芳しい香りと味わいに深みを合わせ持

つ。④ 軽軟けいなん。すべらかさを持ち、柔軟性がある。⑤ 潤沢じゆんたく。

に從い、振動に耐える。⑦ 餓渴がかつを除く。飢えを満たし、



大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。今月号よりかつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をご紹介します。と思います。

対談 聖天様はこわい神様なのか ①

(歡喜第十一号 昭和四十二年発行より)

伊波信次郎・北原清至

北原 聖天様のご信仰をお勧めして、よくぶつかる返答に「聖天様は怖い」といわれる人が多い。これが第一番ですね。こういう人は信心をしたことのない人、信仰に入ってみなかつた人が多いんです。では何が怖いのか、と聞くと漠然としている。具体的に何かをしてそれが撥ね返って当って、それで怖かったと言うような経験をしたのではなくて、ただ漠然としているのです。

私が入らぬから勧められて神棚にお札をおまつりし、お水とローソク、お米を上げて数珠を繰って唯ご真言だけ称えるだけの、まだ信仰も浅くそんな程度の簡単なお参りに入ったのが終戦直前でした。私は、昭和十二年に戦争に征き十五年帰還し、一年半過ぎの十七年に再び応召され十八年に帰り、またすぐ徴用を受けたのです。

今でも忘れられないことは、二十年三月初めにお堂へお参りに来て、礼拝作法をしようとお数珠を繰ったとたんに糸がきれてバラバラになってしまったのです。使っていた菩提樹の大きな数珠は、十三本の糸がよってあって、手で引っぱった位では切れないんです。そ

れで今はもう無いが、仲見世の数珠屋さんへ持って行って修理してもらおうのですが、予備が三連もあつたものが、一週間のうちに全部切れてしまいました。最後の数珠が切れてしまったので、これは何か大きな変事があるのではないかと思います。それがあの三月十日の大空襲の前日でした。お山のご本堂も何もかも焼けてしまいました。全く不思議な事で、聖天様のお告げだったのではないかと思うのです。

だから、聖天様は怖いからと聞かされると、永年信心している私でも、どう説明してよいか難しい。「あらかた」なことは「怖い」というのと同じかしらと不安な気持ちになることがあります。

伊波 そうですね。私もよく「聖天様は怖い」と言うことを聞きます。私自身の体験からしても確かに怖いと思います。然しこれはその方の受けよう一つでして、例えば聖天様に自分の力以上のことを、「どうしてもこうやらなければならぬから」とお願いしたとします。そうしますと確かに聖天様は聞き届けて下さいます。

ところが人間というものは仕様の無いもので、五つしか力が無いのに十のものをお願いして、十のものが叶えられる。その叶った時は有難いと思っておりますが、暫くするとその有難さを自然と忘れてしまいます。そうすると、元の五つの力に戻ってしまう。然しご自分には気が付かないで、どうしてご参詣しているのにご利益だけないのかしらと思う。

十のお力をいただいたのならば、その気持ちを忘れずに信仰続けて感謝する。有難いという気持ちを持続して一生懸命ご参詣すれば怖いということはない。しかし元々の五つの力にだけになると、いくらご参詣しても利益がないと思うのです。

このことはかなり永い間ご信仰している方でも、所謂自分だけの力になった時に、聖天様を恨んでお詣りをお止めになることがある。これは信仰の抛り所が違っているからだと思うのです。

私どもの父は永年熱心に聖天様を信仰しておりましたが、私など小さい頃からただ漠然とお参りしたのではなく、例えば何か他処からただきものがあります。その時父は「おい、これは私がもらつたんではなくて、お聖天様が下さつたのだから、先ずお聖天様に御礼をしなければいけないよ。」と常日頃話していたので、物心ついた頃から何か買ってもらつても自然と聖天様に御礼を言う習慣になつてしまいました。ですから聖天様にお願ひすれば、何か好きなものが手に入るのではないかと幼な心にそう思っていました。

つまり聖天様が怖いと言われるのは、それだけご利益を下さるあらたかな神様だからではないでしょうか。信仰して相当の財が出来る。そうしますと、つい苦労した頃のことを忘れ易い。聖天様のご紋は巾着になつていますが、ご承知のように巾着は口が非常に大きく、中味が十分入るように入っています。金をもうけたら或る程度で締めおけという意味でマークになつていゝるのではないのでしょうか。反面、大根のマークは、清らかな気持ちで絶えず節約といいますが、しっかりした生活を続けられれば永く利益がいただける、かように私は解釈するのであります。同時に大根は四季を通じて、出廻り大変栄養価のある野菜です。この意味に於て、贅沢するために聖天様は儲けさせてくださるのではないと思うのです。(次号へ続く)

二月行事予定

御縁日大法要

節分会 二月三日(土) 午後三時 節分札一組 五〇〇円也

僧侶が一年分のお経をお唱えする中、年男による豆まきが行われます。

福枳(福豆付) 一升枳 三、〇〇〇円 一合枳 五〇〇円

浴油講大法要 二月二十日(火) 午前十一時 講金 一、五〇〇円也

毎朝の浴油祈禱に使う胡麻油をお供えします。

朝まいり会 二月一日〜七日 午前八時から八時半会 費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には、読誦終了後に食事作法を行います。

日曜勤行 二月十一日(日) 午前九時 参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会 二月十一日(日) 午前十時/午後一時 会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直ししましょう。

坐禅の会 二月二十四日(土) 午後五時〜七時 定員二十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要 二月二十五日(日) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

三月の行事 御縁日大法要

婦人講 三月二十日(火) 午前十一時 講金一、五〇〇円也

稻荷祭 三月二十七日(火) 午前十一時 講金一、五〇〇円也

祈禱のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受付け付けております。どうぞお申込みください。

祈禱料

別座祈禱 壺万円(一週間)
浴油祈禱 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円
沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすること、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円
所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壺万円
当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。
ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp またメールをお送りください。